



## 國寶白水阿彌陀堂

一石炭の發見地調査見學記

史談會員

鈴木光四郎

史談會第三回の行事として  
月十八日田水の阿彌陀堂及び  
片寄山麓が白炭を見出し常  
磐田を開發することの出来  
た由縁ある土地、ミロク澤は  
見学することになった。

この日風もなく小寒の氣節  
には珍らしい晴な日であった  
史談會の集りの日は常に朝な  
日あつた事は吾々の仕事が  
自然から祝福されていけるよう  
に考えられた。參會者は皆橋  
久太郎、上原秀信、高木誠一  
永山徳一、根本忠孝の諸氏を  
はじめ賀賀三十名それの中學  
生女学生又内町小學校の本村  
先生や兒童などその數七十  
名以上及び象徴以上の盛況  
であった。史談會の仕事を理  
解され協力して下さる方が増  
加しつゝあることは吾々とし  
て誠にうれしく感ずる次第で  
ハイキングを兼ねて尼子機

を右に印し新川に沿うて御台  
境、高坂、宮を経て白水の阿  
彌陀堂に着いたのは十一時半  
頃であった。南面して御堂は  
森の中に建つてある。御堂は  
ある廟成寺に於て赤土仕職  
のものなしを受け中食をとり  
頃であります。南面して御堂は  
石の雪田を踏して建てられた事  
である。炭鑿に勤めている  
者であるが古國方面に  
解説道菊地巖雄君は實業で  
あり又阿彌陀堂を過去十年以  
来も細心に研究している櫻威  
士である。炭鑿に勤めている  
者であるが古國方面に彩色  
する事に決定した。

一昔前であるが古國方面に  
解説道菊地巖雄君は實業で  
あり又阿彌陀堂を過去十年以  
来も細心に研究している櫻威  
士である。炭鑿に勤めている  
者であるが古國方面に彩色  
する事に決定した。

宇治平野の美術式の流れ  
の裏面を研ぎて比較される  
のであると云はれるので  
ある。炭鑿に勤めている  
者であるが古國方面に彩色  
する事に決定した。

宇治平野の第四回場である  
州白水の阿彌陀堂をじぶん  
とが出来るのである。

堂の東は今は東池田西は西  
池田と云はれ宇治の小築院、  
今泉の金毘羅御所のように池  
田の金毘羅御所の如くに改  
められたと想像されるので  
ある。附近には徳尼の寺を埋  
めと云ふ廢寺や中の坊なる  
地名が残り音の宏大なる、奥

山が云はれてゐる。

山が云はれてゐる。